

BPT(バイオマスプロジェクトチーム)だより No.25

http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/e_ichihai/bio/biotop.htm



平成18年11月30日(木)
バイオマスプロジェクトチーム
(環境生活部資源循環推進課)

1. 国・大学・研究機関等との連携について

○第1回地域LCA協議委員会の開催(LCA:ライフサイクルアセスメント)

11月9日、(独)産業技術総合研究所LCA研究センターと千葉県を構成メンバーとする地域LCA協議委員会を開催しました。

LCA研究センターから既に公表された研究成果を踏まえた、生ごみや家畜排せつ物をテーマとした現在の研究の進捗状況の報告があり、意見交換等を行いました。

今後は県庁内関係各課と連携しながらデータ提供等で協力していく予定です。

2. 普及啓発活動・その他

○11月11～12日に開催された「君津市生涯学習フェスティバル」、12日に開催された「芝山はにわ祭り」、19日に開催された「そうさ農業祭り」にブースを設置し、バイオマス製品を使って普及啓発活動やアンケート等を行いました。



君津市生涯学習フェスティバル



そうさ農業祭り



芝山はにわ祭り

○山武市立山武南中学校で展開されるバイオマス環境学習(その4)

11月16日(木)の授業では、地域で取り込まれるバイオマス利活用の現場を見学して、生徒たちが食用油や製材残材を使ったバイオマス利活用の実験・実習を行いました。

土づくりにこだわったおいしい野菜を作ろう(グループ1)

山武地域で有機野菜の栽培と販売を実践している農家を訪ねて、地域のバイオマス資源を活用する環境保全型農業の取り組みについて調べました。

新しいバイオマスエネルギーで車を走らせよう（グループ2）

学校給食センターなどの廃食用油からバイオディーゼル燃料（BDF）を製造している施設に中学校で集めた廃食用油を持ち込み、BDF 製造プラントを見学してから、午後は千葉大学生の技術指導を受けながら BDF をつくる実験をしました。

木質資源を利用して心も体も元気になろう（グループ3）

千葉大学生の提案で、処理に困っている製材残材（樹皮付き背板）を有効利用するひとつの方法として、生徒たちがたくさんの木製プランターカバーを製作しました。



樹皮付き背板を利用した木工実習



廃食用油の BDF 化実験



有機栽培実験中の野菜



完成したプランターカバー



分離中のバイオディーゼル燃料



土づくり実験農園風景

バイオマスエタノールに関する国の動向

- サトウキビや規格外小麦などから出来るエタノールをガソリンに混入し、自動車燃料として利用することがクローズアップされています。最近、首相が国産バイオエタノールの導入目標を600万k l（原油換算360k l）とするよう農林水産省に指示をしたことがマスコミで報道されたところです。
- 現在、国においては農林水産省、経済産業省、環境省がサトウキビ、ソルガム（こうりゃん）、建設廃材、規格外小麦などを原料としてバイオマスエタノールを製造する試験プラントを6箇所（北海道十勝地区、山形県新庄市、大阪府堺市、岡山県真庭市、沖縄県宮古市及び伊江村）設置し、原料作物等の調達、エタノール製造、自動車への供給という一連の流れについて実証試験を行っています。また、各省の平成19年度予算概算要求においても、バイオマスエタノールの利用に向けた交付金等が計上されています。
- バイオマスエタノールの利用については、化石燃料に代わるものとして地球温暖化防止などに有効であることから利用推進が望まれるところですが、一方では、原料作物の栽培をどうするか、ガソリンに比べコストがかかるなどの課題を抱えています。引き続き、国の動向などの情報の収集に努めていきます。